

## 実践活動Ⅲ

(情報収集・訪問調査・実験試行等の結果についての情報交換)

日時：平成24年11月3日（土） 10:00～15:00

講師：丹羽 健司（矢作川水系森林ボランティア協議会代表）

### 概況



9:30～10:00

野原川観光センターにて集合、足助きこり塾に向かう。

途中、丹羽講師らが携わった間伐実施林を見学、必要性・意義等について説明を受ける。

10:00～10:15

<ガイダンス>

きこり塾作業拠点の小屋「生闘学舎」にて、講師と受講生の自己紹介を行い、本日の内容について協議する。

10:15～12:20

<森の健康診断>

10月8日の自主活動において「森の健康診断」をマニュアルと調査票に基づき説明を受け、講師の指導のもと簡略化して診断を実施したが、復習のためにマニュアルと調査表だけに基づき受講生のみで実践したいという要望を受け、「生闘学舎」から程近い森林で実施した。先回も参加している方が多いため、自主性を重んじ、講師陣は極力口を挟まないよう申し合わせたが、ついアドバイスが飛ぶ場面も。林床植物の同定では、受講生の中に植物に詳しい方もみえ、大いに助けられた。こうした実践技術を身につけるのには<習うより慣れろ>であることを皆さん実感した模様。

13:00～15:30

午後からは<自然観察班>と<伐採実習班>に分かれて各々指導をいただいた。

<自然観察班>

きこり塾敷地内の森林等を巡り、自らが指導する場合等を想定しながら主に植物観察を行った。

<伐採実習班>

午前中「森の健康診断」を行った箇所には、きこり塾が使わせてもらっている森林の所有者が間伐目的で巻き枯らし(形成層の切断)を行った立木が何本もあり、将来倒壊するのを防ぐため、これらを対象に間伐することとなった。受け口・追い口の決め方・作り方、ロープによる立木支持等を再度徹底した上で実行した。水を上げなくなった立木は全体に軽くなっていて、倒そうとしても残立木に引っ掛る割合が却って通常の間伐より高く、その際無理に材を切断したりすることにより事故を招くことなども説明いただいた。